

天空の里 下栗の景観展望台（ビューポイント）整備事業

取り組みに至る背景・事業の目的

おおぎ平は、「にほんの里 100 選」に選ばれた下栗の里を一望できる好位置にあるものの、ここに至る経路が急峻で危険なため立入ができない状態であった。

下栗の里を訪れる観光者等からパンフレット等で紹介された写真を持参してこの場所が見たい、写真を写したいとの要望が強かったため、経路は少し長くなるが安定したコースを選定して、広く下栗の里を紹介するべく新たな歩道整備を検討し、下栗地区全体の事業として観光客が安全に歩くことができるよう、歩道を設置することとなった。

事業内容

下栗の里の景観を一望できるビューポイントまでの延長約 750 m を開削し土留工を施し安全柵を取付けた遊歩道と展望台を地域住民自らが整備し、観光資源の活用や地域活性化に向けた取り組みを行った。



事業効果

下栗地区は急傾斜地にあり、農業も大規模な展開はできない土地柄であり、少子高齢化人口減少という中で、将来に向けた地域振興を図るには、南アルプスの景観・日本のチロルといわれる里の景観を主体とした観光事業に期待するところが大きい。

今回実施した事業は、地区の全ての人達が下栗を広く紹介するための事業として認識し、力を合わせて地域づくりに取り組み、地域の力の結集を象徴する事業とすることができた。

さまざまなメディア等を通じ「下栗の里」は広く知られる所となり、この紅葉シーズンは連日ツアー客等が訪れ、地区の宿泊施設、食事処等も入込が増加し、有料ボランティアによる下栗の里案内組織も立ち上げ観光客に対応している状況である。



工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

新たな歩道整備は地形が急峻であることが最も難点で、歩道の開設については林地内の支障木伐採、歩道を作るための土留工、それを作るための木材の搬出、鉄筋による安全柵設置、網張り等現地に合わせた工法を行うため、専門的な技術を要する作業も多くあり、専門技術のある者、普通の作業と手を分ける必要があり苦慮した。

現地が急傾斜であり狭隘なため機械が全て使えず、木材、鉄筋等の資材の運搬等地区のみんなが汗を流し体を使って完成をみることもできた。

完成後オートバイで進入する観光客がいたため進入防止の標識の設置を行い、また狭い歩道の転落防止のための看板、標識の設置を行った。

これからは整備した景観展望台（ビューポイント）遊歩道を多くの観光客に安全に訪れていただけるよう整備充実を図っていきたいと考えている

【選定のポイント】
地域住民の共同作業により歩道を整備し、より多くの観光客が景観を楽しめる機会を提供し、地域活性化を図ったことが高く評価でき、住民直営施工のため費用対効果が高い。

団体名	下栗自治会	事業タイプ	ハード事業
連絡先	0 2 6 0 - 3 6 - 2 1 6 8 (自治会長 胡桃澤 三郎)	事業費	1, 1 9 8, 2 5 7 円
		支援金額	7 2 8, 0 0 0 円